

令和元年第5回庄原市議会定例会

一般質問通告者 及び 質問事項

12月13日～12月17日

質問順位

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 徳 永 泰 臣 | 2. 五 島 誠 |
| 3. 桂 藤 和 夫 | 4. 林 高 正 |
| 5. 山 田 聖 三 | 6. 横 路 政 之 |
| 7. 政 野 太 | 8. 赤 木 忠 徳 |
| 9. 福 山 権 二 | 10. 岩 山 泰 憲 |
| 11. 谷 口 隆 明 | 12. 近 藤 久 子 |

庄 原 市 議 会

令和元年12月定例会 一般質問

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	徳永泰臣	庄原いちばんづくりの検証について	1
2	五島 誠	庄原いちばんづくりの検証について	3
		旧小島原小学校の活用について	3
3	桂藤和夫	庄原いちばんづくりの検証について	4
4	林 高正	庄原いちばんづくりの検証について	7
5	山田聖三	庄原いちばんづくりの検証について	8
		比婆道後帝釈国定公園における施設整備及び観光振興について	9
6	横路政之	骨髄バンクドナー登録について	10
		有害鳥獣対策について	12
7	政野 太	SDG sを活用した持続可能な社会をつくるために	14
8	赤木忠徳	市民力・市内企業の専門性を活かして災害対応を	17
		庄原市の政策は循環性が必要	18
		入札の公平性、透明性の確保について	20
9	福山権二	庄原市森のペレット工場について	21
		小中学校教職員の勤務実態について	21
10	岩山泰憲	イノシシ等の有害鳥獣の被害防止のための国の交付金の有効活用による各種事業実施と捕獲支援制度の充実について	22
		障害者や、高齢者、病弱な方、ひとり親の世帯に対する道路除雪の取り組みについて	23
		比和の農産加工品販売施設の整備について	23
11	谷口隆明	厚生労働省による再編が必要な公的病院の公表とその対応について	24
		国民健康保険事業の運営について	24
		第8期介護保険事業計画の策定に向けて	24
		特定公共賃貸住宅の今後の運用について	25
12	近藤久子	わたしらしく輝く明日のために、お互いに尊重し合う共同参画のまち実現に向けて	26

12月13日（金）徳永泰臣・五島 誠・桂藤和夫・林 高正

12月16日（月）山田聖三・横路政之・政野 太・赤木忠徳

12月17日（火）福山権二・岩山泰憲・谷口隆明・近藤久子

順位	1	質問者	徳永 泰臣	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 庄原いちばん づくりの検証 について	<p>人口減少や少子高齢化の進行、基幹産業の衰退など、庄原市を取り巻く課題が深刻度を増す中、これらの課題の克服と現状からの脱却、そして活力ある庄原市の実現に向けた取り組みを推し進めるため、「地域産業」「暮らしの安心」「にぎわいと活力」で構成する「庄原いちばんづくり」を本市の基本政策と位置付け、事業の推進に取り組んでおられる。</p> <p>その中から「地域産業のいちばん」での森林経営管理制度の円滑な実施、比婆牛ブランド化推進事業の進捗状況、成果、課題等について伺う。</p> <p>(1) 森林経営管理制度の円滑な実施により、本市の森林資源の有効活用を推進するとあるが、新たな森林経営管理制度の取り組みの状況及び課題について、市長の所見を伺う。</p> <p>(2) ウッドワンと庄原産材を活用するための連携協定を結ばれたが、目的と具体的事業について、市長の所見を伺う。</p> <p>(3) これら事業の遂行には森林の境界明確化が重要であると考えているが、現状及び課題について、市長の所見を伺う。</p> <p>(4) 森林経営管理制度の円滑実施に向けた今後の取り組みについて、市長の所見を伺う。</p>		市長	

順位	1	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原いちばん づくりの検証 について	<p>(5) 比婆牛ブランド化推進事業により比婆血統和牛の繁殖・肥育頭数の拡大支援を継続し、枝肉販売ルートの確立と、内外での取扱量の増加を図る。また、地理的表示保護制度(G I)登録により、一層の付加価値化を図るとの事であるが、比婆牛ブランド化推進事業の現状と課題について伺う。</p> <p>(6) 地理的表示保護制度(G I)取得による比婆牛ブランド化推進事業への効果について伺う。</p> <p>(7) 比婆牛ブランド化推進事業の今後の取り組みについて伺う。</p>		市長

順位	2	質問者	五島 誠	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 庄原いちばん づくりの検証 について	<p>現在、木山市長2期目の集大成ともいえる 予算編成中であると思うが、木山市長の代名 詞「庄原いちばんづくり」について重点事業を 中心に現状、課題、展望について伺う。</p> <p>(1) 地域産業のいちばん、新たな可能性で切 り開く持続的な地域産業の構築の中で、中 小企業振興対策も重点事業に盛り込まれて いるが、その現状と課題について伺う。ま た、苦境を乗り越えるための次のステップ に踏み出しているのか伺う。</p> <p>(2) 同じく技術革新による産業モデルの構 築と雇用基盤の確立の中に3つの重点事業 を挙げて取り組まれているが、新たな雇用 の確保と経済循環の起爆剤に科学技術が繋 がる事業立てとなっているのか。現状と課 題について伺う。</p> <p>(3) 庄原いちばんづくりの最終年度の展望 および今後の庄原いちばんづくりの展望に ついて伺う。</p>	市 長				
2. 旧小鳥原小学 校の活用につ いて	<p>(1) 平成29年ひろしまさとやま未来博の廃 校リノベーションにより改修された旧小鳥 原小学校であるが、八銚自治振興センター 以外の部分について、その後の活用がどの ような状況であるのか。</p> <p>(2) 今後の有効活用をどのように進められ ていくのか。</p>	市 長				

順位	3	質問者	桂藤 和夫	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 庄原いちばん づくりの検証 について	<p>平成 31 年 2 月に改訂された「庄原いちばん づくり・重点事業一覧」に示されている「にぎ わいと活力のいちばん」の中で、「オール庄原 体制による人口減少対策の取り組み」につい て、人口減少に伴うまちづくりの諸課題と併 せて所見を伺う。</p> <p>(1) 市長はオール庄原体制による人口減少 対策について、官民をあげて取り組むとし ておられるが、人口減少のスピードは衰え ず、平成 17 年 3 月末で 44,434 人であった 本市の人口が、令和元年 10 月末では 34,960 人となり、14 年間で約 9,500 人減少し、つ いに、人口ビジョンに定めた 2020 年目標の 35,000 人を下回った。国立社会保障・人口 問題研究所の新たな人口推計によると、こ のままの状況で推移すると 2045 年には 21,571 人になるとの厳しい予測がされてい るが、本市の人口減少の実態についてどの ような認識をお持ちなのか、お聞きしたい。</p> <p>(2) 人口減少により、本市のまちづくりを進 めるにあたって様々な課題が発生してい る。まず、本市の財政への影響について伺 う。今年度の予算は約 302 億円、災害復旧 費の 30 億円を除くと昨年度に比べて実質マ イナス予算となっている。市税収入は、人口 減少に伴い年々減少傾向にあり、地方交付 税は、10 年前に比べて 40 数億円も大幅に</p>		市 長	

順位	3	質問者	桂藤 和夫	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 庄原いちばん づくりの検証 について	<p>減少し、各団体等に対する補助金も昨年度より減額され、各団体からは厳しい運営を強いられているとの声も聞く。このような本市の財政状況について、市長の所見を伺う。</p> <p>(3) 次に、学校の統廃合への影響について伺う。教育委員会は子供の減少に伴い、現在、学校適正配置が必要として学校の統廃合計画を進めているが、今後の地域活性化のためにも、各地域の学校のあり方について市長部局と教育委員会の連携した議論、そして地域住民との議論がもっと必要ではないかと思うが、市長の所見を伺う。</p> <p>(4) 本市の広い市域の中で、地域住民の日々の生活を支える移動手段の確保は大きな問題である。人口減少の中で路線バスや市民タクシーの利用者数が減少し、地域の生活交通が大変厳しい状況にあるが、この移動手段がなくては高齢ドライバーになって運転免許を返納したくてもできない現状がある。住み慣れた地域で人生の最期まで暮らすためには、地域の移動手段の確保について抜本的な見直しが必要と思うが、市長の所見を伺う。</p>		市長	

順位	3	質問者	桂藤 和夫
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原いちばん づくりの検証 について	<p>(5) 人口減少は消費量の減少につながり、商店をはじめとして地域産業は厳しい経営に苦慮され、商店数、工業事業所数のいずれも減少している。地域産業を支える労働力も常に人手不足状態で、仕事があっても人が来ない状況が続いている。本市の活性化には、地域産業の活性化が必要であると思うが、市長の所見を伺う。</p>		市長
	<p>(6) 各地域の実態を見ると、一人暮らしや高齢者のみ世帯が増加し、家庭における扶助、助け合いの機能が衰退している。また、地域の中で若者が減少しており、高齢者など支援を要する方々を支える担い手も減少傾向にある。民生委員の改選期においても定員が埋まらず、地域団体の役員もなり手が少なく地域社会を支える担い手が年々不足している実態がある。今後、元気な地域社会を作り上げていくため、自治振興区をはじめとする地域団体や市民との連携、役割分担が必要不可欠と思うが、厳しい地域社会の現状について市長の所見を伺う。</p>		
	<p>(7) 人口減少の問題は、全てのまちづくりに関わる本市の最重要課題であり、今一度人口減少対策のあり方を見直し、総合的、全庁的な取り組みを強化する必要があるのではないかと。今後、成果の出る人口減少対策をオール庄原体制でどのように進めようかとされているのか、市長の決意を伺う。</p>		

順位	4	質問者	林 高正	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 庄原いちばん づくりの検証 について	<p>(1) 「にぎわいと活力」のいちばんでは、新たな「にぎわいの潮流」の創出として、『公共施設に求められるニーズ・機能を的確に把握し、施設のあり方を見つめ直し、都市機能の充実と、「まち」の新たな動線を生むことで、にぎわいを喚起する。』とし、『そこで、本市の将来像を見据えた「グランドデザイン」を描き、“まち”と“ひと”の動きを俯瞰した施設配置や機能向上により、都市区域の活力とにぎわいを生み出す。』との記述があるが、どういった「グランドデザイン」を描かれているのか、市長の見解を伺う。</p> <p>(2) また、現在、協議が始まっているジョイフルの大規模改修、庄原グランドホテルの移転改築と「グランドデザイン」との関連、連携等について、市長の見解を伺う。</p> <p>(3) 「地域産業」のいちばんでは、新たな可能性で切り開く持続的な地域産業の構築として、「和牛TMRセンター整備事業」と「TMRコントラクター振興補助金」があるが、比婆牛増頭等に関連し、TMR事業の現状について伺う。</p>		市長	

順位	5	質問者	山田 聖三
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原いちばん づくりの検証 について	<p>本市の最重要課題は、人口減少をいかに抑えていくかである。庄原いちばんづくりの重点事業が、その最重要課題の解決に向けた対応となっているかを検証するため、比婆いざなみ街道物語(庄原市北部資源活用計画)について伺う。</p> <p>(1) 比婆いざなみ街道物語の中に資源活用の基本方向として「知ってもらおう」、「来てもらおう」、「感じてもらう」、「また来てもらおう」の循環的な取り組みが大切であるとあるが、それぞれの取り組み状況及び課題について伺う。</p> <p>(2) 比婆いざなみ街道物語推進事業の目的、目標、実施状況及び成果について伺う。</p> <p>(3) 最終的には、「庄原に住んでもらう」ことを資源活用の基本方向に掲げられているが、そのためにしなければいけないこと及び比婆いざなみ街道物語の今後の取り組みについて伺う。</p>		市長

順位	5	質問者	山田 聖三	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
2. 比婆道後帝釈 国定公園にお ける施設整備 及び観光振興 について	<p data-bbox="531 416 1184 741">観光振興課を設置し、観光振興を本市の主要施策として推進されているが、観光の名勝地である比婆道後帝釈国定公園内のトイレ等の施設が老朽化し、早急な整備が必要となっている。施設整備及び観光振興の取り組みについて伺う。</p> <p data-bbox="531 763 1184 864">(1) まず、帝釈峡遊歩道内のトイレ、休憩所等の整備状況について伺う。</p> <p data-bbox="531 887 1184 987">(2) 次に、比婆山・吾妻山のトイレ等施設の整備状況について伺う。</p> <p data-bbox="531 1010 1184 1301">(3) いくら綺麗なトイレであっても、掃除がされていないトイレは、入ることを躊躇する。観光地としての印象を悪くすることがないように日々の清掃が重要である。公園内のトイレの清掃状況について伺う。</p> <p data-bbox="531 1323 1184 1480">(4) 比婆道後帝釈国定公園における施設整備及び観光振興の今後の取り組みについて伺う。</p>	市長				

順位	6	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 骨髄バンクド ナー登録につ いて	<p>(1) 骨髄バンクでは、ドナーの登録者の確保が大きな課題となっている。登録できる年齢が決まっており、18歳から54歳までで、55歳になり次第登録から外れる。ドナー登録者数は全国で約52万人、骨髄移植を行っている他国と比較すると、ドナー登録自体が少ない現状である。平成24年の移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律の制定に伴い、県や保健所設置自治体等により、さまざまな対策が取られてきていると思うが、保健所管内の血液のがんの患者数、造血幹細胞移植数、ドナー登録数と、本市のドナー登録の実態に対する認識について伺う。</p>		市長	
<p>(2) ドナー登録を増やすには、まずは啓発普及が重要となる。採取について、かなり大がかりなことのように感じられている方もいるが、実際は全身麻酔で痛みもなく、大げさな献血という感覚である。本市では、どのような啓発普及をされているのか伺う。</p>				

順位	6	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 骨髄バンクド ナー登録につ いて	<p>(3) ドナー登録推進のための支援も必要であると考えます。骨髄バンクを介して骨髄移植をする場合、患者と適合してから採取後の健康診断に至るまでに8回前後、平日の日中に医療機関へ出向いたり入院することになる。その日数をドナー自身の有給休暇を使うのではなく、勤務先が特別休暇として認めるのがドナー休暇制度である。日本骨髄バンクで確認が取れている民間のドナー休暇制度導入企業・団体は、現在481社とされている。地方公共団体もこの制度があると思うが、本市の現状を伺う。</p> <p>また、本人や企業に対し、助成金を交付する休業助成制度を実施している自治体も全国で615市町村ある。自治体により内容は異なるが、日額本人2万円、企業に1万円という内容が多い。本市でも検討すべきではないかと思うが考えを伺う。</p>		市長	

順位	6	質問者	横路 政之	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 骨髄バンクド ナー登録につ いて	<p>(4) 骨髄移植後のワクチン再接種への助成について、治療のために造血幹細胞移植を行った場合、移植前に実施された定期予防接種により獲得した免疫は低下または消失し感染しやすくなる。その結果、ワクチンの再接種をすると保険の対象外で多額の費用が発生する。そのため、20歳未満の再接種が必要な方への助成をする自治体もある。本市の取り組み、導入に向けての考えを伺う。</p>		市長			
2. 有害鳥獣対策 について	<p>(1) 本市において、有害鳥獣対策は今日まで様々に取り組まれているが、実績・効果はどうか。</p> <p>(2) 他の自治体では、捕獲班等に支払うイノシシに1頭当たり捕獲補助として2万円支払っているところもある。本市においても同等程度の捕獲補助をしてはどうか。</p> <p>また、捕獲用檻、罟等に設置する発信機等の購入補助も行っている。同様に補助をしてはどうか伺う。</p>		市長			

順位	6	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 有害鳥獣対策 について	<p>(3) 各地域では全域を防護柵で覆いイノシシ等の侵入を防止する対策をとられている。毎年、点検・修理・補修のため地域ぐるみの取り組みになっている個所もある。この作業は急斜面等点検が困難な場所もあり実際の作業は重労働を強いられている。今後、高齢化、人手不足によりせっかくの防護柵が機能を果たさなくなる可能性があると考ええる。実態調査をして人的補助等の対策を講じていくべきと考えるが、見解を伺う。</p>		市長	
<p>(4) 果樹を生産されている地域では、クマによる被害も発生している。クマに対する被害対策も必要と考えるが見解を伺う。</p>				

順位	7	質問者	政野 太	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. SDG sを活用した持続可能な社会をつくるために	<p>2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な開発目標「SDG s (Sustainable Development Goals)」は、2030年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さないことを誓っている。「SDG s」は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、国も積極的に取り組んでいる。</p> <p>国は、SDG s推進本部を設置し、「SDG sアクションプラン2018・2019」の中の3本の柱として「SDG sと連動した官民挙げた“Society5.0”の推進」、「SDG sを原動力とした地方創生、強靱かつ環境にやさしい魅力的なまちづくり」、「SDG sの担い手である次世代・女性のエンパワーメント」を推進している。すでに本市にある庄原赤十字病院、株式会社広島銀行などで、その取り組みがなされており、全国的に今後さらに広まる事が想定されている。</p> <p>このように、「SDG s」の理念は、官民を問わず共有されるべきものであり、本市でも「SDG s」を共通言語としていけば、より官民が連携したまちづくりを進めていくための新たな突破口も開かれると考えられることから、次の点について伺う。</p>		市長 教育長	

順位	7	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. SDGsを活用した持続可能な社会をつくるために	(1) 本市として、現時点での「SDGs」の取り組みについて、どのように理解をしているのか、市長の見解を伺う。		市長 教育長
	(2) 平成28年度より3年間実施されている「庄原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、本年度次期総合戦略の策定検討を行う事になっている。国も第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略では、地方創生SDGs推進を明確化し、「SDGs」に取り組む自治体の支援の拡充、「SDGs」を活用した官民連携の推進をすすとしている。それを踏まえて、本市の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」における「SDGs」の位置づけをどのように考えているのか市長の見解を伺う。		
	(3) 地方自治体及び地域経済の新たな付加価値を生み出す企業、専門性をもったNGO・NPO、大学・研究機関等の広範なステークホルダー(利害関係者)とのパートナーシップの深化、官民連携の推進を図るために内閣府が設立した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」の会員となる事は、本市の諸課題解決に効果的であると認識をしているが、市長の見解を伺う。		

順位	7	質問者	政野 太	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
<p>1. SDG sを活用した持続可能な社会をつくるために</p>	<p>(4) 2020年度より順次実施される新学習指導要領では、持続可能な社会の構築の観点 が盛り込まれるなど、「SDG s」の達成に 貢献する教育として「ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な 開発のための教育)」が求められている。</p> <p>庄原市教育振興基本計画の基本目標・基 本方針、その内容はまさに「SDG s」の基 本理念、目指すゴールと共通している点 が多くある。このことからみても子供た ちが「SDG s」について学ぶことは、今 後の社会形成をしていく上で大変重要 であると認識をしている。教育長の「ESD」への取 り組みに対する考えを伺う。</p>		<p>市長 教育長</p>	

順位	8	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 市民力・市内 企業の専門性 を活かして災 害対応を	<p>(1) 台風や豪雨などにより、全国で災害が多発している。昨年は庄原市に大きな爪痕を残し、現在も復旧工事が進められている。今年も連続して台風が襲来し、長野県、千葉県をはじめ東日本を中心に、これまで経験した事の無いような被害をもたらした。庄原市も他市との災害協定、避難場所の再指定など事前にできる対策は進んでいるが、現在までに締結された災害協定の件数と主な内容について伺う。</p> <p>(2) 全国では、長期化する停電、避難対策に市民や企業との協定が進んでいる。携帯電話の充電に、電気自動車やプラグインハイブリッド自動車の活用など市民に協力をお願いした例や供給販売店と協定を結んだ例も紹介されている。自治振興区での高齢者、歩行困難者の早期避難にも専用車がなく対応に苦慮されていると聞くが、介護施設には、ウェルカムシートなど安易に乗車可能な装備のある車両を保有している。食料面では、コンビニやスーパー、資材面ではホームセンターをはじめ市内業者との協定など対策が必要である。今後、市民、企業をあげて災害対応への協力体制が必要と考えるが、どのように進められるのか伺う。</p>		市長

順位	8	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 市民力・市内 企業の専門性 を活かして災 害対応を	(3) 自治振興区の協力なしに災害対応はできない。そのためには、人的、金銭面での対応が必要と思われるが、今後の方向性を伺う。		市長
2. 庄原市の政策 は循環性が必 要	<p>市の予算は、その年度内に完結することを建前とした「単年度予算」であるが、継続費、繰越明許費、債務負担行為など継続性が担保されている。しかし、継続されたとしても、多くは決算議会で認定されれば終了になってしまい、計画、実行で完結する習慣が身についているように思われる。以前からPDCAサイクル（Plan(計画) Do(実行) Check(評価) Action(改善)）が重要といわれているが、これまで実施された施策をPDCAサイクルに当てはめて問う。</p> <p>(1) 現在「比婆牛」の看板が中国道、中国やまなみ街道に設置されているが、中国道では、道路面より低く、やまなみ街道では松江方向からは、目にすることができない。比婆牛看板の予算は幾らで、P（計画、目的）D（実行）C（評価）A（改善）、それぞれどのように実施されたのか伺う。</p>		市長

順位	8	質問者	赤木 忠徳	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 庄原市の政策は循環性が必要	<p>(2) 以前、庄原駅周辺土地区画整理事業について、岩手県紫波町の実例(補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進めた「オガールプロジェクト」。駅前の町有地 10.7 ヘクタールを中心に、ホテルやバレーボール専用体育館、図書館、カフェ、産直マルシェなどが入居する施設を相次いでオープン。人口 3 万 3,800 人の町に年間 80 万人が訪れるようになっている)を紹介したが、完工間近になり、改めて計画目的について伺う。</p> <p>(3) 備後落合駅で元国鉄機関士の方がボランティア活動をされている。以前、欧米から訪問された女性が和式トイレを使用できないため、自宅に案内されたことから、備後落合駅のトイレの改善をお願いされたが、どのように自治振興区に回答されたのか、その後の経過はどうなのか伺う。</p>		市長	

順位	8	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
3. 入札の公平性、透明性の確保について	<p>現在、来年度の予算編成中であるが、その予算の基礎額を算出するために、入札参加予定業者に見積を依頼していると聞く。これは、完全にスタートラインが同時でなく、フライングをした企業がいるに等しいと考える。</p> <p>現在は、インターネット等で基礎額を知ることができる時代であり、入札の公平性、透明性の確保は、自治体が当然厳守すべきことであることから、次の事項について伺う。</p> <p>(1) これまで予算の基礎額を出すために、入札予定業者に見積を依頼した状況及び今後の対応を伺う。</p> <hr/> <p>(2) 実行委員会方式で多くのイベントが開催されているが、発注に際して、見積入札をせずに随意契約で物品購入されている実態がみられる。しかも、市の入札参加資格のない業者との随契もみられる。実行委員会形式であっても、市からの補助金で運営されているものであり、公平性、透明性が求められると思うが、現状と対策を伺う。</p>		市長

順位	9	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原市森のペレット工場について	(1) 庄原さとやまペレット(株)の事業計画によれば、この工場において、今年年間150トンのペレット生産を予定されているが、現在の生産状況を伺う。		市長
	(2) この工場は、当初から使用許可により、庄原さとやまペレット(株)が独占使用しているが、長期にわたって同社に使用させることについては、地方自治法第96条第1項第6号に基づき貸し付けるべきと考える。市長は、なぜ、この方法をとらないのか伺う。		
2. 小中学校教職員の勤務実態について	庄原市立小中学校教職員の勤務実態については、本議会で繰り返し議論が行われ、政府も働き方改革を重要課題として企画実施している。その中で、文部科学省と広島県教育委員会の指示を受け、庄原市教育委員会は本年5月に「学校における働き方改革取組方針」を定められている。このことに関連して以下の点を伺う。		教育長
	(1) 現状、学校現場における勤務実態で、改善する部分、問題点についてどのように把握しているのか伺う。		
	(2) この取組方針における中心的な課題について、どのように取り組み、その成果がどうであったのか伺う。		

順位	10	質問者	岩山 泰憲
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
<p>1. イノシシ等の有害鳥獣の被害防止のための国の交付金の有効活用による各種事業実施と捕獲支援制度の充実について</p>	<p>(1) 近年、イノシシ被害が増大し、本市の基幹産業である農業に多大な被害を与えているが、本年度のイノシシ被害の状況について伺う。</p> <p>(2) 国の鳥獣被害防止総合対策交付金事業では、イノシシ防除のための防護柵と電気柵ができるように定められているが、本市では、なぜワイヤーメッシュ13ミリ支柱にだけ、間口を狭めて市民の要望をとりまとめるのか。より効果的に支柱を大きくするほか、メッシュの事業が取り組みにくい地域には電気柵の事業も含める等、地域の実態に即した効果的な事業に取り組むべきと考えるが、市長の考えを伺う。</p> <p>(3) 他の自治体では、イノシシの捕獲奨励金、箱罟補助、くくり罟補助、発信機補助等の補助制度は、それぞれが十分役割を果たしている。本市においても、現在の市単独補助制度について見直しを検討し、より効果的な対策を進めていくべきと考えるが、市長の考えを伺う。</p>		市長

順位	10	質問者	岩山 泰憲
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 障害者や、高齢者、病弱な方、ひとり親の世帯に対する道路除雪の取り組みについて	<p>これから冬を迎えるに当たり、除雪に対する取り組みについて伺う。</p> <p>障害をお持ちの方、高齢者、病弱な方、ひとり親の世帯に配慮した道路除雪について、引き続き実施されるべきと考えるが、今後の対応を伺う。</p>		市長
3. 比和の農産加工品販売施設の整備について	<p>比和の農産加工品販売施設について、先の議会において、今後、既存の施設の活用や場所等も含めて検討を進めていくとの回答であったが、その後の経過について伺う。</p>		市長

順位	11	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 厚生労働省による再編が必要な公的病院の公表とその対応について	庄原赤十字病院も、再編・統合の対象病院として公表された。病院も庄原市も再編は必要ないとの当然の立場に立っているが、議論は地域医療構想調整会議に委ねられる。県の地域医療構想では、備北地域は大幅な病床削減が示されているが、市として庄原赤十字病院の存続へ、どのような方針で臨むのか、市長の見解を伺う。		市長
2. 国民健康保険事業の運営について	(1) 国民健康保険料(税)の算定において、国・県の財政支援で、子どもの均等割部分の廃止をめざしていくべきだと考えるが、見解を伺う。		市長
	(2) 資格証明書・短期保険証の発行は極力抑え、国民健康保険法第1条の社会保障としての国保を実現するため、発行そのものを廃止することが必要だと考えるが、見解を伺う。		
3. 第8期介護保険事業計画の策定に向けて	介護保険事業計画改定の3年ごとに、第1号被保険者の保険料負担割合が1%ずつ増えるが、庄原市は65歳以上の人口がピークを越え、全国の数十年前の水準を示しており、都市部とは違う。地域の特性に応じた制度運用に改め、介護保険料の増加を抑えることはできないのか伺う。		市長

順位	11	質問者	谷口 隆明	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
4. 特定公共賃貸住宅の今後の運用について	<p>市内全域に存在する特定公共賃貸住宅は、条例で家賃の減額の限度を入居後20年としている。20年間のうちで、新たな住宅を確保するというのが趣旨ではあるが、人口減少が著しい今日、見直しが必要ではないか。家賃の減額を大幅に延長する、あるいは安価に分譲するなどして、継続して住み続けられる方策をとることはできないか伺う。</p>	市長				

順位	12	質問者	近藤 久子	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. わたしらしく 輝く明日のため に、お互いに 尊重し合う共 同参画のまち 実現に向けて	<p>平成 29 年 3 月に、「第 2 次庄原市男女共同参画プラン」が策定されている。本市の普遍的かつ重視すべき方向性の基本方針 5 項目を定め、施策の展開として基本目標を①環境づくり、②人づくり、③安心づくりと定め、多岐にわたる様々な事業の展開を図られている。</p> <p>その実施内容や、課題解決に向けての今後の展開について、以下の点を伺う。</p> <p>(1) 働く場における男女共同参画の推進において、最終年度の目標値に向けての主な課題について。</p> <p>(2) パワーハラスメント防止策の義務化に向けての施策が明らかになったが、本市としての今後の取り組みについて。</p> <p>(3) 医療・介護・福祉の連携による在宅高齢者の介護支援体制の充実について。</p> <p>(4) 防災分野への女性の参画拡大に努め、男女共同参画の視点に立った防災対策を進めることについて。</p> <p>(5) 地域活動への女性の参画を促進するための意識啓発と、人材育成支援について。</p> <p>(6) あらゆる暴力の根絶に向けた地域づくりについて。</p> <p>(7) 生涯にわたる健康づくりのための、施策の方向性における普及・啓発を進めるに当たっての課題について。</p>		市長	

順位	12	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
<p>1. わたしらしく 輝く明日のため に、お互いに 尊重し合う共 同参画のまち 実現に向けて</p>	<p>(8) 本プランの計画推進に当たっては、定期的な取り組み状況の確認と共に点検を行い、課題解決に努めることとなっているが、計画期間が2026年までの10年間であることを踏まえれば、計画の進行管理が重要と考える。PDCAサイクルの特にCheck機能の充実について伺う。</p>		<p>市長</p>